

「抜け道」交通に対する沿道住民の意識調査・分析

大同工業大学大学院 学生員 ○山田 勇平
 大同工業大学工学部 正会員 嶋田 喜昭
 (財)豊田都市交通研究所 正会員 橋本 成仁

1. はじめに

都市部では住宅地等の生活道路へ通過交通が流入し、生活環境の悪化が問題となっているところも多い。これまで著者らは、このような通過交通を「抜け道」交通と定義し、主にドライバーからみた「抜け道」利用のメカニズムを検討してきた。ここでは、「抜け道」の沿道住民に対し「抜け道」交通に関する意識調査を実施し、通過交通対策の検討材料とすることを目的としている。なお、愛知県豊田市を研究対象としている。

2. 意識調査の概要

過去（2004年）に豊田市のドライバーを対象とした意識調査により、抜け道として多く指摘された路線を7箇所選出し、その沿道住民を対象に意識調査を実施した。主な調査内容は、抜け道交通に対する意識、危険箇所、道路環境整備についてなどである。本調査は2005年12月に配票郵送回収により実施し、対象となる660世帯のうち107世帯から110票の有効票を得た。世帯に対する有効回収率は16%であった。

回答者属性は、男女比が6:4であり、30歳代、また居住年数が10年未満の回答者が多くなっている。なお、90%近い回答者が運転免許を取得しており、通勤手段も自動車が78%と多い。

3. 意識調査の集計・分析結果

(1) 抜け道交通に対する意識について

自宅前の交通量に対しての意識を聞いたところ、「非常にも多いと思う」「やや多いと思う」で80%近くを占めている。その自宅前の道路を走行する車に関して思うことは、1位に「スピードの出しすぎ」が多く挙げられ、2位や3位としては、「道路に出入りする車に対して注意不足」や「通行人に対して注意不足」といった意見が多くなっている。「特に気にならない」という意見は10%以下と少ない。また、自宅前の道路に関して不安なことは、「子供の交通事故」「自分の交通事故」といった交通事故に関する事項が1位に挙げられる割合が高く、2位としては、「騒音・振動・排ガス・粉塵等の問題」が多く挙げられている。「特に不安は無い」という意見は5%以下と非常に少なくなっている。ここで、自宅前の道路を抜け道として利用されることに対しての意識を聞いたところ、図-1に示すように「ゆっくりなら利用されてもかまわない」が37%と最も多く、次に「利用しないように対策をしてほしい」の17%となっている。しかし、「利用することは自由だからかまわない」や「他の地域で自分も抜け道を利用しているので仕方がない」「他の地域の状態と変わらないと思うので良い」といった意見も計3割と少なくない。

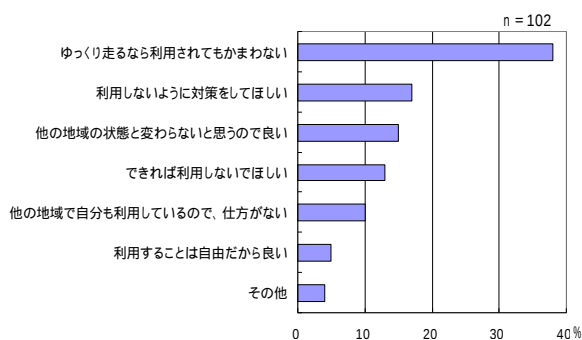


図-1 抜け道利用についての意識

以上の結果から、抜け道沿道の住民は、自宅前の交通環境について不満や不安を持っているものの、必ずしも抜け道交通を排除してほしいという意識ではないことがうかがえる。

次に、自宅前の道路を改善することになった場合について、整備協議会等への参加意欲を聞いたところ、

キーワード 抜け道、意識調査、豊田市

連絡先 〒457-8532 名古屋市南区白水町40 大同工業大学工学部都市環境デザイン科 TEL052-612-5571

参加意欲がある人が 51%となっており、関心の高さがうかがえる。参加意欲が無い人は 25%で、その他として「分からない」や「書面などの協力なら OK」といった意見が 24%となっている。

加えて、自宅前の道路が整備または規制されると仮定したとき、どのような道路環境を重視するかについて聞いた。その結果、図 - 2 に示すように「路上駐車がないこと」「車がゆっくり走る道路であること」「車の排気ガス、騒音、振動が少ないこと」といった環境が重視されており、「路上駐車できる十分な車道の幅があること」や「立ち話できる空間があること」などといった環境はあまり重視されていないことが分かる。

(2) 危険箇所について

自宅前の道路においての事故やヒヤリ経験の有無を質問したところ、事故経験ありが 12%で、ヒヤリ経験ありも含めると 67%と多くなっている。また経験は無いが見たことはあるという人も 16%おり、80%以上の回答者が何らかの形で危険な経験をしている。

図 - 3 に示すように白山地区は、抜け道上の交差点での事故体験やヒヤリ経験が多いが多く、沿道住民の危険意識も高くなっている。他の地区でも同様の傾向がみられる。

(3) 属性別に見た意識の違いについて

抜け道交通に対する意識や各道路環境整備の重要度（図 - 2）と個人属性との関連性をみるためにクロス集計（カイ二乗検定）を行った。その結果、地区別に自宅前の道路に対する不安要素、自宅前の道路に対する注意、道路環境整備の重視事項に、また、年齢別では、自宅前の道路に対する注意、事故・ヒヤリ体験、道路環境整備の重視事項といった意識に有意差（5%）がみられる。例えば、図 - 4 は地区別に見た道路環境整備の重視事項のうち「段差は無くとも歩道と車道が区別されていることの重要度」を示したもので、白山地区と寿地区では重視する意見が多くなっているが、山の手・丸山地区ではあまり重視されていない。また、山の手・丸山地区は、道路に対する不安要素や、自宅前の道路を走行する車に対する意識についても、「特に不安は無い」「特に気にならない」という意見が他の地区に比べ多くなっている。このように、地区による意識の差異などが把握される。

4. おわりに

本研究では、抜け道交通の対策を検討するために、抜け道沿道住民に対し意識調査を行った。抜け道交通に対する住民の意識や住民が認識する危険箇所、地区属性等による道路環境整備に対する意識の違いなどが把握された。今後、さらに詳細に分析を進めるとともに、具体的な通過交通対策を検討する必要がある。

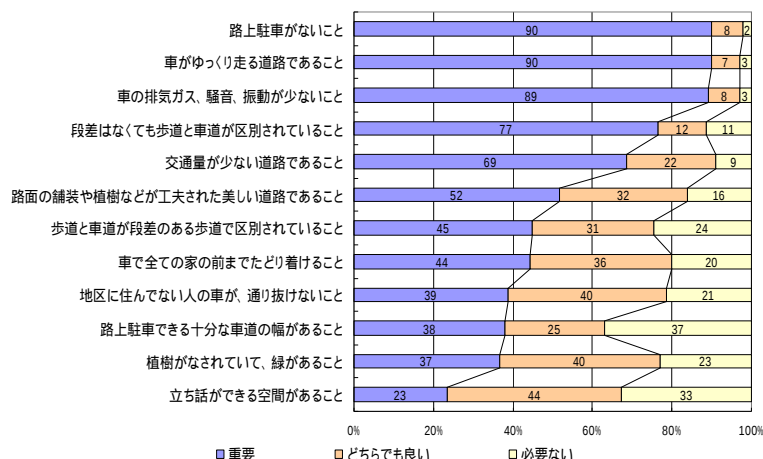


図 - 2 道路環境整備の重要度意識

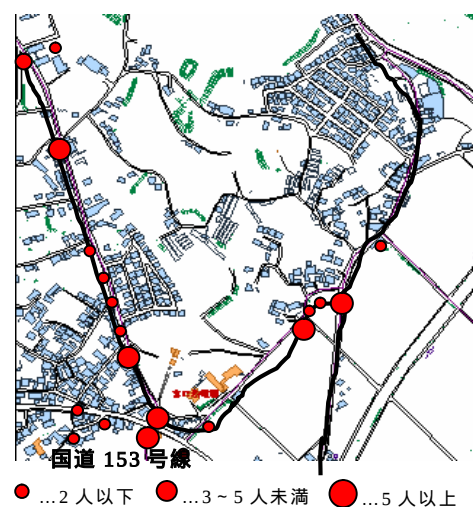


図 - 3 白山地区における危険指摘箇所

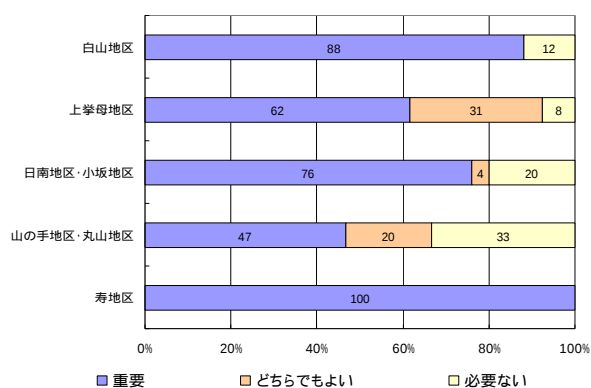


図 - 4 車道と歩道が区別されている重要度